

シエムリアップ MoiMoiライフ

ISSUE
119

「Moi Moi」とはクメール語で「ひとつずつ、ゆっくりと」の意味。恵み豊かなカンボジアでのスローライフをお届けします。



小出 陽子 (Yoko KOIDE)

1992年早稲田大学大学院卒。一級建築士。2000年、UNESCO/JSA 遺跡修復オフィス建設のため、カンボジアに赴任。2005年～2020年、シエムリアップにてレストラン Cafe Moi Moi を経営。2005年 JST (NGO: アンコール人材養成支援機構) を設立し、農村地域の支援活動を始める。2013年“アンコールの都の西北”に公立のバイヨン中学校を創設。2019年には高校も併設され、現在、全校生徒1,000人の学校運営を行っている。

● JST ホームページ

<http://www.jst-cambodia.net>

教師の頑張り感謝！

生徒数約1000名、教師数13名で、どのように授業運営が行われているのでしょうか？ 現在、バイヨン高校・附属中学校で調査を進めているところですが、厳しい現状が見えてきました。

まず、クラス数は極力減らさざるを得ません。その結果、1/3は60人クラスとなり、生徒たちは通常2人掛けの机に3人座って授業を受けています。

次に、都市部の学校には余剰教員が多数在籍しているので、そちらから常時6人ほどの教師に来てもらい、授業をお願いしています。また、教師の授業担当時間の上限は国で定められているため（中学で週18時間、高校で週16時間）、どうしても教師がいない科目は、eラーニング用授業をTVモニターに流して正式授業としています。

また、各学年、国が定めた必修科目とコマ数はあるのですが、カンボジアでは教師が足りない場合、科目省略をしたりコマ数を減らしたりするのもやむを得な

いとされているそうです。例えば、バイヨン高校・附属中学校では英語の教師が一人しかいないため、英語の授業が半分に減らされている学年もあります。その結果、英語の授業は学校全体で週43時間となっていますが、とても一人の教師で教えられる時間ではありません。そこで唯一の英語教師・ソリヤ先生は、TVモニターを駆使して、2〜3クラス同時進行で授業を行うなど工夫し、週34時間まで減らしています。が、それでも国が規定する授業担当上限時間の2倍！ さらに、よくよく聞いてみると、他に歴史の授業も週5時間教え、事務的業務も山積み状態…ということ、これはもう完全にキャパシティオーバーではないでしょうか！

なぜそんなに頑張れるのか…と聞いてみると、生徒たちの“学びたい！”という気持ちがひしひしと伝わってくるからと、そんな現場の声を聞くと、支援者側の立場として、私自身もつと何ができることはないかと強く思うのです。



TVモニター越しに授業を受ける生徒たち